

研究分類

①：社会実装テーマ（水素エネルギーインフラの普及を促進するシミュレータ）

目標スペック

・Spec1：2025年のFCVの自立的普及拡大を見据えた水素ステーション設置基数

・2020年160カ所、2025年320カ所（2018年現在101カ所）

・Spec2：2025年以降の水素ステーションの持続的運営（≒黒字化）

（ステーションの長期間の運営が可能である事業者しか参入不可）

・Spec3：CO2フリー水素を再生可能エネルギーによって大量、かつ経済的に製造

（1,100円/kg程度、ただし都市ガス改質等による水素製造から再エネによるCO2フリー水素への転換が必要）

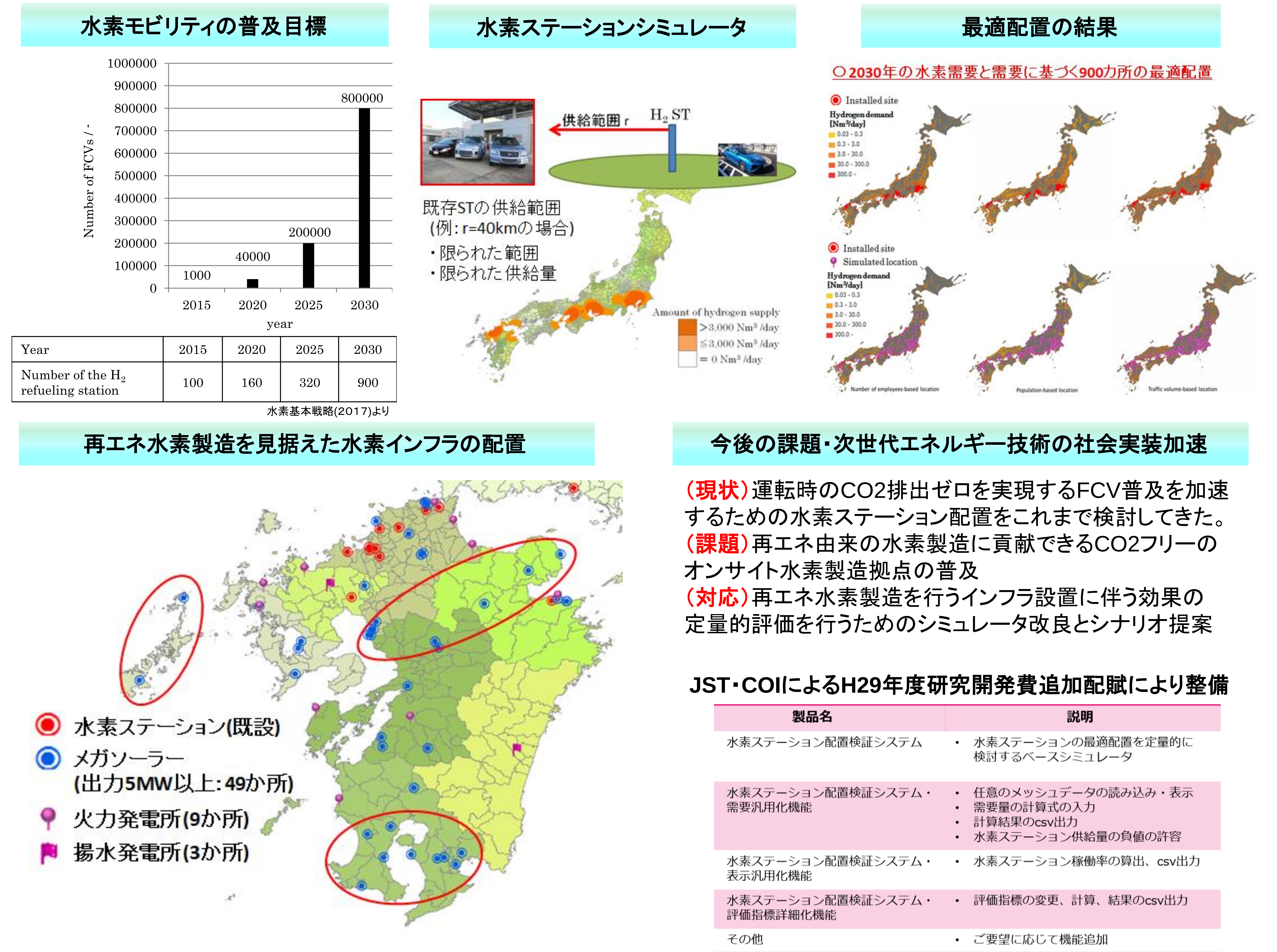
SDG'sへの貢献：SDG's No.7.1（安価かつ信頼できるエネルギー）、No.7.2（再生可能エネ）

ベンチマーク

・水素インフラの中核となる国内の水素ステーションは2018年現在101カ所。2020年の160カ所設置に向けて加速が必要

・インフラ（ステーション）の普及拡大には、量的な拡大とともに、水素需要を質的に満たす設置シナリオが必要

・国内ではFCV普及台数（3,000台弱）に対し、水素ステーションは101カ所。ステーション事業者へ将来シナリオを明示し、国内の自発的、持続的普及拡大を支援・促進するシナリオ提案が重要



H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度～
TRL 6	TRL 7	TRL 8	TRL 8	TRL 8
再エネ分布マップを用いて、STによる再エネ回収量の上限を可視化	COIの他の研究課題のデータを組み合わせてシミュレータ機能を拡張	再エネ回収可能量の上限をもとに、インフラ配置シナリオを提案	水素インフラ配置シナリオを全国に提案し、シミュレータを社会実装	水素インフラの、効率的配置を実現する“水素社会シミュレータ”実用化